

東京都北区立図書館(1/2)

たまには北海道を飛び出してみます。私が勤務していた東京都北区立中央図書館です。

北区は東京 23 区の北部。町で言えば赤羽、十条、王子、田端、滝野川などでしょうか。縦長の区の中央には背骨のように新幹線(東北・上越・北陸)、京浜東北線、上野東京ライン。さらに池袋方面から埼京線、湘南新宿ラインが走り、そこに都電、東京メトロ南北線なども。関東を南北に走る鉄道王国のような地域です。山手線、都営三田線もかすります。王子駅周辺には鉄道マニアがよくカメラ構えて待機しています。

そんな北区は第二次世界大戦時にはとてつもなく空襲を受けました。日本軍の施設が区内各所にあったからです。私が子供の頃の 60 年代にはまだ施設跡の空き地が残っていました。レンガで作られた施設の壁だけでなく、貨物の引き込み線跡など挙げたらきりがありません。

中学生の頃、つまり 70 年代はよく北区立中央公園へ友達と自転車で遊びに行ったものです。新宿から埼京線で 12 分ほど。十条駅に着きます。駅から徒歩 15 分ほど。少年野球のグラウンドやテニスコートもある大きな公園です。その隣に自衛隊十条駐屯地があります。ここは全国でも珍しく陸上自衛隊・海上自衛隊・航空自衛隊が共同使用している防衛省施設です。今回ご紹介する北区立中央図書館は防衛省施設に隣接しています。

80 年代末当時まで防衛庁施設は大きな煉瓦倉庫による施設でしたが、老朽化などを理由にすべて壊して建て直すということに。壊していく様子はとても悲しく写真など撮る気分にもなりませんでした。

しかし 1 棟だけでも保存すべきだという区民運動が始まります。では「どのように保存活用するか？」となりますよね。そこに偶然当時王子にあった北区立中央図書館が老朽化で何とか改修しなくてはという議論が行われており、「ならば、あの煉瓦倉庫を図書館にしては？」というアイデアが。

後に図書館となるこの煉瓦倉庫はどのような施設だったのか。歴史は大正時代までさかのぼります。1919 年、東京砲兵工廠銃包製造所(旧 275 号棟)として建てられました。その後終戦まで名称は何度も変わり、1947 年米軍に接收され、TOD(東京兵器補給廠)第4地区となります。

1958 年、第4地区の一部がアメリカから日本に返還され、陸上自衛隊や民間企業に貸し出したりした時期もありました。私が子供の頃見かけた 70 年代は、倉庫のようになっていてあまり使用している感じがしませんでした。いつも、がらんとしていた記憶があります。

時は 2000 年代へ。いよいよこの煉瓦倉庫を図書館にするためのプロジェクトが始まります。まずはこの倉庫、耐震含めて使えるか？というところから始まり、しばらくぶりの開放なので研究者はもちろん住民も見物したいと申し出ました。

あいにく私はこの段階では倉庫内を見学していません。とにかく仕事が忙しくて図書館へ通うこともできず、無理が続き当然倒れるわけで7ヶ月も入院する事態に。療養している時に何か形に残る資格が欲しいなと思い、通信教育で司書資格を取得しました。

このタイミングと図書館移転の話題が重なり、「あの煉瓦倉庫が図書館になるのか。何でも良いからここに携わりたいな」と気持ちが芽生え、北区立図書館区民の会に入会しました。まさに開館プロジェクトを具体的に進める時期でした。

2008 年 6 月 28 日、現在の北区立中央図書館が開館。ここは通称「赤レンガ倉庫」と呼ばれていましたが、北区内のレンガ工場で焼かれたものも使われていました。建物の鉄骨は北九州の八幡製鉄所によるものです。刻印も残っています。「旧 275 棟」の「275」を記した箇所が煉瓦倉庫のところどころで見つけることができます。

<https://www.library.city.kita.tokyo.jp/viewer/info.html?idSubTop=0&id=1>

館内の図面など詳細については公式 HP を見ていただいた方がわかりやすいです。

(後半に続く)

2024 年 10 月訪問
加藤 重男